

15th JSMD プログラム

会長講演

特別講演

教育講演1～14

シンポジウム1～14

自殺予防研修会

自殺対策委員会企画シンポジウム

双極性障害委員会企画シンポジウム

多職種連携委員会企画シンポジウム

倫理委員会 企画研修会

診療教育委員会企画

第12回うつ病診療講習会

学会奨励賞・下田光造賞 受賞講演



会長講演

7月27日(金) 11:15～12:15

京王プラザホテル南館 4F 第1会場「錦」

PL1 うつ病におけるパーソナリティとストレスの相互作用

座長	尾崎 紀夫	名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野
演者	井上 猛	東京医科大学精神医学分野

特別講演

7月27日(金) 13:45～14:45

京王プラザホテル南館 4F 第1会場「錦」

ILE1 Treatment of Bipolar Disorder

座長	井上 猛	東京医科大学精神医学分野
演者	Allan H. Young	Centre for Affective Disorders Institute of Psychiatry, Psychology & Neuroscience (IoPPN) King's College London, UK

教育講演 1

7月27日(金) 13:45～14:45

京王プラザホテル本館 4F 第2会場「花A」

EL1 気分障害の原因はどこまでわかっているのか

座長	大森 哲郎	徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野
演者	加藤 忠史	理化学研究所脳神経科学研究センター精神疾患動態研究チーム

教育講演 2

7月27日(金) 13:45～14:45

京王プラザホテル本館 4F 第3会場「花B」

EL2 うつ病を言葉と薬物と身体で治すーその相互作用からー

座長	石郷岡 純	CNS薬理研究所
演者	飯森 眞喜雄	いいもりこころの診療所

教育講演 3

7月27日(金) 13:45～14:45

京王プラザホテル本館 4F 第4会場「花C」

EL3 子どもの心の発達と気分障害

座長	齊藤 卓弥	北海道大学病院精神科神経科
演者	田中 哲	東京都立小児総合医療センター

教育講演4

7月27日(金) 13:45~14:45

京王プラザホテル本館4F 第5会場「花D」

EL4 あなたにもできる、外国人へのこころの支援

座長	中尾 睦宏	国際医療福祉大学医学部 / 山王病院心療内科
演者	秋山 剛	NTT東日本関東病院

教育講演5

7月27日(金) 17:15~18:15

京王プラザホテル南館4F 第1会場「錦」

EL5 うつ病への反復経頭蓋磁気刺激療法 (rTMS)

座長	本橋 伸高	同愛記念病院神経科・精神科
演者	鬼頭 伸輔	東京慈恵会医科大学精神医学講座

教育講演6

7月27日(金) 17:15~18:15

京王プラザホテル本館4F 第2会場「花A」

EL6 脳科学に基づくうつ病の診断・治療法の開発研究の現状と今後の展望

座長	神庭 重信	九州大学大学院医学研究院精神病態医学
演者	山脇 成人	広島大学大学院医歯薬保健学研究科

教育講演7

7月27日(金) 17:15~18:15

京王プラザホテル本館4F 第3会場「花B」

EL7 うつ病と認知症の関連

座長	三村 将	慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
演者	池田 学	大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室

教育講演8

7月27日(金) 17:15~18:15

京王プラザホテル本館4F 第4会場「花C」

EL8 ニッポンの「うつ病」史(1959-1983)

座長	松浪 克文	公立学校共済組合関東中央病院メンタルヘルスセンター
演者	大前 晋	国家公務員共済組合連合会虎の門病院精神科

教育講演9

7月27日(金) 17:15~18:15

京王プラザホテル本館4F 第5会場「花D」

EL9 うつ病の森田療法

座長	水野 雅文	東邦大学医学部精神神経医学講座
演者	中村 敬	東京慈恵会医科大学附属第三病院精神神経科

教育講演 10

7月28日(土) 11:10~12:10

京王プラザホテル南館 4F 第1会場「錦」

EL10 こころアプリ：うつ病に対するスマートフォン認知行動療法の臨床試験から

座長 堀越 勝

国立精神・神経医療研究センター
認知行動療法センター

演者 古川 壽亮

京都大学大学院医学研究科健康増進・行動学分野

教育講演 11

7月28日(土) 11:10~12:10

京王プラザホテル本館 4F 第2会場「花A」

EL11 “ブルータス、お前もか” 難治性うつ病の張本人 不安・抑うつ発作

座長 加藤 敏

小山富士見台病院

演者 貝谷 久宣

心療内科・神経科赤坂クリニック / パニック症研究センター

教育講演 12

7月28日(土) 11:10~12:10

京王プラザホテル本館 4F 第3会場「花B」

EL12 精神病理学からみた気分障害のとらえ方

座長 大坪 天平

東京女子医科大学東医療センター 精神科

演者 内海 健

東京藝術大学保健管理センター

教育講演 13

7月28日(土) 14:30~15:30

京王プラザホテル本館 4F 第4会場「花C」

EL13 小児うつ病リスクの脳画像研究

座長 中川 伸

山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座

演者 内田 舞

Program for Early Identification and Prevention for Pediatric Depression,
Massachusetts General Hospital / Psychiatry, Harvard Medical School

教育講演 14

7月28日(土) 15:30~16:30

京王プラザホテル本館 4F 第4会場「花C」

EL14 うつ病のリカバリー達成のためにCBT、リワークは何が出来るのか？

座長 久住 一郎

北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室

演者 北川 信樹

北大通こころのクリニック

シンポジウム1 多様化するうつ病治療 —適応、利点、問題点、実現可能性—

7月27日(金) 9:00~11:00

京王プラザホテル南館 4F 第1会場「錦」

オーガナイザー 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

【趣旨・狙い】

米国のSTAR*D研究において薬物療法の限界が知られ、我が国でも薬物治療抵抗例に認知行動療法を追加することの意義が発表された。海外のうつ病治療ガイドラインでは、薬物療法か精神療法にするかは当事者の希望で決められるべきとされているが、軽症例に対しては、薬物療法や精神療法よりも簡単なケアや食事、運動と言った手軽なアプローチが推奨され、断眠療法や高照度光療法、最近では温熱療法と言った時間生物学的治療も注目されている。難治例に対しては、電気痙攣療法に加えて経頭蓋的磁気刺激療法の保険収載が予定されており、海外においては迷走神経刺激療法や深部脳刺激療法も注目されている。

こうした薬物療法以外の治療法が多様化する今、それぞれの適応やメリット・デメリット、さらにはその実現可能性について関心が高まっている。本シンポジウムでは、エビデンスに基づき実際にこれらのアプローチを導入されている先生方にご講演いただく。

座長 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室
中川 敦夫 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター

SY1-1 うつ病の栄養・運動療法

功刀 浩 国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第三部

SY1-2 うつ病患者の睡眠—覚醒リズムに着目した時間生物学的治療

高江洲 義和 杏林大学医学部精神神経科学教室

SY1-3 うつ病に対する精神療法的アプローチ：その課題と展望

中川 敦夫 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター

SY1-4 難治性うつ病に対する神経刺激療法

高宮 彰紘 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 / 駒木野病院

シンポジウム2 気分障害の心理教育の実際と展開

7月27日(金) 9:00~11:00

京王プラザホテル本館 4F 第2会場「花A」

オーガナイザー 市来 真彦 東京医科大学精神医学分野

【趣旨・狙い】

精神科の治療において、「患者本人や患者を支える家族が、正しい知識を得て、主体的に治療に取り組む」ことを援助することが治療チームのスタンダードとなって久しい。近年ではストレスケア病棟やリ・ワークなどにおいて心理教育が活発に展開されている一方で、これらの場所以外のクリニックや病院などでは十分な心理教育が行われず、薬物療法で症状の消退を持って治癒と判定されている場合も少なくない。本シンポジウムでは今年で21回目を迎える心理教育家族教室ネットワークにおいて我が国の心理教育をリードするシンポジストと、受け入れ側の企業側のシンポジストによって、心理教育の基礎、基本から実践、そして展開についてご紹介いただき、心理教育を行う側のモチベーションを高められるような2時間にしてみたい。

座長 後藤 雅博 ところのクリニックウィズ・地域精神保健研究センター / 田宮病院
藤田 博一 高知大学医学部医学教育創造・推進室

SY2-1 うつ病の家族療法

後藤 雅博 ところのクリニックウィズ・地域精神保健研究センター / 田宮病院

- SY2-2 うつ病の心理教育のエビデンスと実践
藤田 博一 高知大学医学部医学教育創造・推進室
- SY2-3 うつ病家族への病院や保健所における家族心理教育実践
香月 富士日 名古屋市立大学看護学部
- SY2-4 心理教育のゴールとしての職場復帰や再発予防の問題
吉田 契造 株式会社デンソー健康推進部

シンポジウム3 うつや自殺予防に役立つ、日常生活の工夫：水と魚と光

7月27日(金) 9:00～11:00

京王プラザホテル本館 4F 第3会場「花B」

オーガナイザー 寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座

【趣旨・狙い】

水道水に含まれるリチウムや、青魚に含まれるEPA,DHA,アラキドン酸などオメガ不飽和脂肪酸、さらには環境光や光線療法が、どのようにうつ病や自殺予防の予防因子となるか、あるいは危険因子となるかを、最新の知見を有するシンポジストに話してもらうことにより、日常生活の工夫という形で整理することがねらいである。

座長 寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座
石井 啓義 大分大学医学部精神神経医学講座

- SY3-1 水道水リチウムと自殺
石井 啓義 大分大学医学部精神神経医学講座
- SY3-2 水道水リチウムと若年者の抑うつ予防
安藤 俊太郎 東京大学医学部附属病院精神神経科
- SY3-3 多価不飽和脂肪酸やリチウムと自殺関連行動
兼久 雅之 東京都立松沢病院 / 大分大学医学部精神神経医学講座
- SY3-4 光は心にどのように影響を与えるか？
平川 博文 大分大学医学部精神神経医学講座

シンポジウム4 うつ症状を伴う発達障害者の支援

7月27日(金) 9:00~11:00

京王プラザホテル本館 4F 第4会場「花C」

オーガナイザー 市来 真彦 東京医科大学精神医学分野

【趣旨・狙い】

一億総活躍社会の実現に向けた働き方改革のスローガンが掲げられる中、精神障害者の就労・雇用・復職支援のニーズは益々高まっている。しかし受け入れ側の企業はうつ病と診断されている社員のサポートが一律でないことに混乱し、また労働者側も薬を飲んで解決しない悩みに困惑している。その背景にはうつ病の概念の拡大により、発達障害をベースにした二次障害としてのうつ症状をうつ病と診断される患者の存在があげられる。我々は昨年の本学会において医師の立場から「発達障害の成り立ちから考えるおとなのうつ病治療」シンポジウムで討論を行ったが、本年は医療機関以外の社会資源における支援者（臨床心理士、精神保健福祉士、研究者）という立場からそれぞれの機関におけるうつ症状を伴う発達障害者支援の現状と課題を発表していただき、その生の声を共有することにより、うつ症状を伴う発達障害者支援のあり方を再考する機会としたい。

座長

青木 正 あおきクリニック
市来 真彦 東京医科大学精神医学分野

SY4-1 研究領域におけるうつ症状を伴う発達障害者の雇用の現状と課題

高瀬 健一 高齢・障害・求職者雇用支援機構障害者職業総合センター

SY4-2 大学におけるうつ症状を伴う発達障害者の修学支援

辻 孝弘 大妻女子大学学生相談センター

SY4-3 うつ症状を伴う発達障害者の就労支援

五味渕 律子 ハローワーク新宿

SY4-4 うつ症状を伴う発達障害者の雇用支援と生活支援

峯谷 由紀子 株式会社江友

指定発言 徳永 雄一郎 医療法人新光会不知火病院

小林 隆児 西南学院大学大学院人間科学研究科臨床心理学専攻

シンポジウム5 特定の病態における双極性障害の薬物療法 up-to-date

7月27日(金) 15:00~17:00

京王プラザホテル南館 4F 第1会場「錦」

オーガナイザー 白川 治 近畿大学医学部精神神経科学教室

【趣旨・狙い】

双極性障害の薬物療法では、躁病相、うつ病相、維持期という病相ごとの薬剤選択については多くの治療ガイドラインですでに詳しく述べられているが、年齢や身体状態に着目した薬物療法のあり方が論じられることは比較的限られている。本シンポジウムでは、小児・思春期、妊産婦、高齢者、身体管理・身体合併症という特定の病態における双極性障害の薬物療法について最新の知見を紹介し、より洗練された薬物療法の実践に向けて情報を共有したい。

座長 白川 治 近畿大学医学部精神神経科学教室
寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座

SY5-1 児童・思春期における双極性障害の薬物療法

辻井 農亜 近畿大学医学部精神神経科学教室

SY5-2 妊娠・授乳期の双極性障害の薬物療法

松島 英介 東京医科歯科大学大学院心療・緩和医療学

SY5-3 高齢者の双極性障害の薬物療法

馬場 元 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院 / 順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学

SY5-4 身体管理・身体合併症を念頭に置いた双極性障害薬物療法

鈴木 映二 東北医科薬科大学医学部精神科学教室

シンポジウム6 うつ病の安静時fMRI活動に基づいた診断・治療法の開発

7月27日(金) 15:00~17:00

京王プラザホテル本館 4F 第2会場「花A」

オーガナイザー 岡本 泰昌 広島大学医学講座精神神経医科学

【趣旨・狙い】

うつ病の適切な診療を実践するには、診断の精緻化と病態に応じた治療を提供できることが必須である。そのためには、比較的簡便に、疾患を診断し、紛らわしい疾患を除外し、治療効果を評価できる脳バイオマーカーの確立が重要である。安静時fMRI活動は、脳全体の機能的ネットワークを明らかにできる非侵襲的な方法で、近年、うつ病の機能的ネットワークの異常に関して大きな関心が寄せられている。また、うつ病が、脳の活動や機能的結合の一時的な不調からおこる病気として仮定した場合には、例えば、虚血性心疾患に対する心臓カテーテル検査に匹敵するような治療的戦略として、直接的にその活動や機能的結合を健康な方向に修正することができれば最も効率的な治療となる可能性がある。そこで、本シンポジウムで安静時fMRI活動を中心に、機械学習を用いた診断法および安静時fMRI活動に基づいた治療法の開発の現状について紹介する。

座長 中村 元昭 昭和大学発達障害医療研究所
柴崎 千代 広島大学大学院医歯薬保健学研究科精神神経医科学

SY6-1 安静時fMRI活動を用いたうつ病の判別

市川 奈穂 広島大学大学院医歯薬保健学研究科精神神経医科学

SY6-2 機械学習によるマルチモーダルデータ解析を活用した抗うつ薬の治療反応性予測

吉本 潤一郎 奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科情報科学領域

SY6-3 安静時fMRI活動に基づいたうつ病の経頭蓋磁気刺激療法の開発

柴崎 千代 広島大学大学院医歯薬保健学研究科精神神経医科学

SY6-4 うつ病治療を目指したニューロフィードバック開発

山田 貴志 晴和病院 / 株式会社国際電気通信基礎技術研究所脳情報通信総合研究所行動変容研究室 / 昭和大学発達障害医療研究所

シンポジウム7 うつ病治療における作業療法の活かし方

7月27日(金) 15:00~17:00

京王プラザホテル本館4F 第3会場「花B」

オーガナイザー 早坂 友成 杏林大学保健学部作業療法学科 / 杏林大学医学部精神神経科学教室

【趣旨・狙い】

うつ病治療では、患者のアドヒアランスを促し、レジリアンスを高めることが再発予防の鍵となる。これらへの支援は特定の治療法や専門職によって可能になる訳ではなく、多職種協働をもとにしたチーム医療が欠かせない。

作業療法士は精神科チームの一員であり、現在は多くの療法士が、精神科病院や診療所などに所属し、診療を行っている。しかし、その内容は様々であり、療法としての信頼性が疑問視されることもある。背景には、療法としての効果や役割が精神科チームにおいて共有できていない現状がある。

本シンポジウムでは、精神科作業療法の効果を共有し、精神科チームにおける役割を多職種と共に討議できればと考えている。精神科作業療法は多職種協働によって活かされる療法であり、現代精神科医療におけるチーム医療、各専門職の専門性と特殊性の力が必要である。多職種と共に各専門職の視点から作業療法を討議できればと考えている。

座長

早坂 友成 杏林大学保健学部作業療法学科 / 杏林大学医学部精神神経科学教室

稲富 宏之 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻リハビリテーション科学コース作業療法学講座

SY7-1 うつ病治療における作業療法の効果-社会生活を見据えたアプローチ

早坂 友成 杏林大学保健学部作業療法学科 / 杏林大学医学部精神神経科学教室

SY7-2 うつ病治療専門病棟における作業療法

徳永 直也 不知火病院

SY7-3 外来診療における精神科作業療法の利点

岡崎 渉 NTT東日本関東病院

SY7-4 リワークプログラムにおける作業療法士の役割

田中 佐千恵 信州大学医学部保健学科

シンポジウム8 多職種連携としてのリワークプログラムの現状と将来

7月27日(金) 15:00～17:00

京王プラザホテル本館 4F 第4会場「花C」

オーガナイザー 五十嵐 良雄 メディカルケア虎ノ門

【趣旨・狙い】

主として気分障害圏の疾患に罹患し「抑うつ状態」を呈して休職した労働者を対象に、再休職をしない復職を目的としたリワークプログラムを実施する医療機関が全国で210か所を超えている(日本うつ病リワーク協会調べ)。このプログラムは一定程度の症状の改善を主治医が確認し、週2日程度から始まるものであるが、主治医の役割としてはプログラムへの導入の見極めと復職後のフォローが主要な役割である。プログラムは精神科デイケアや作業療法として実施される集団療法であり、各々の診療報酬の算定要件によりかわるスタッフはかわるものの、多職種の協働が求められる精神科リハビリテーションのプログラムである。本シンポジウムでは、医師に加え、現場でプログラムを運営している看護師、精神保健福祉士、臨床心理士、作業療法士から多職種協働のコツや役割について論じてもらう。

座長

五十嵐 良雄 メディカルケア虎ノ門
飯島 優子 メディカルケア虎ノ門

SY8-1 リワークプログラムにおける主治医の役割

高尾 哲也 水戸メンタルクリニック

SY8-2 リワークプログラムにおける看護師の役割

－専任看護師の立場から－

小泉 恭子 阪南病院

SY8-3 リワークプログラムにおける作業療法士の役割

松田 匡弘 京都駅前メンタルクリニックバックアップセンター・きょうと

SY8-4 リワークプログラムにおける臨床心理士の役割

高橋 望 医療法人社団雄仁会メディカルケア虎ノ門

シンポジウム9 性差を考慮したうつ病診療—更年期障害に焦点を当てて—

7月27日(金) 15:00~17:00

京王プラザホテル本館4F 第5会場「花D」

オーガナイザー 渡部 芳徳 市ヶ谷ひもろぎクリニック
野末 聖香 慶應義塾大学看護医療学部

【趣旨・狙い】

更年期障害と言えば女性特有の疾患と考えられてきた。特徴は頭痛、手足の冷え、めまい等の身体症状が主体で女性のうつ病の身体症状と鑑別が難しい。最近男性にも更年期障害があることが知られ始め、抗うつ薬のみでは完全復職出来ない患者に度々遭遇する。これらの患者は男性ホルモン (FT) 低下を示すが、精神科医はこの身体症状 (体の痛み、筋力低下)・精神症状 (抑うつ気分など) を訴える患者をうつ病と診断し治療を開始する。精神科医は男性更年期障害の存在を信じない。一方泌尿器科医は上記症状に性機能症状を加えFT低下を確認しホルモン補充を開始するが背景にある気分障害を意識しない。この原因は性差に起因する疾患では精神科医・身体科医間で共通認識がないためである。このシンポジウムでは性差を考慮したうつ病診療と題し、女性、男性の更年期障害に関する最新の治療とケア、うつ病診療における性差の捉え方について専門の先生方に講演頂く。

座長 渡部 芳徳 市ヶ谷ひもろぎクリニック
野末 聖香 慶應義塾大学看護医療学部

- SY9-1 **男性更年期とうつ病**
渡部 芳徳 医療法人社団慈泉会市ヶ谷ひもろぎクリニック
- SY9-2 **うつとテストステロン**
堀江 重郎 順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学
- SY9-3 **更年期障害の女性のメンタルヘルス支援**
飯岡 由紀子 埼玉県立大学大学院研究科・研究開発センター
- SY9-4 **うつ病を夫婦で治す**
中村 伸一 中村心理療法研究室

シンポジウム10 社会と個人の相互作用としての気分障害

7月28日(土) 9:00~11:00

京王プラザホテル本館4F 第2会場「花A」

オーガナイザー 戸田 裕之 防衛医科大学校精神科学講座

【趣旨・狙い】

気分障害 (MD) は、成因論的にも病像形成的にもその人が所属する社会から強い影響を受けて成立し、その回復には個々の患者毎に発症要因を十分考慮した多面的な治療戦略の統合が必要である。幼少期養育環境は児童期のみならず青年期以降に顕在化するMDの発症・経過に大きく影響し、その生物学的機構の研究が進められている。発達障害もしくはその傾向を持つ人が二次障害としてうつ状態を始めとする様々の精神症状のために社会参加が困難になる事例は最近のトピックスの一つである。成人期以降でも、職場の労働環境や人間関係がMDの発症や回復に重要な要因となることは周知の事項である。彼らの回復—十全な社会再参加をめざすには、個人の症状のみを標的とするのでは不十分であり、社会との関りの中にこそその糸口を見出さなければならない。本シンポジウムでは、各ライフステージにおける社会との相互作用の観点からMDの発症・経過・治療について討論したい。

座長 戸田 裕之 防衛医科大学校精神科学講座
佐野 信也 防衛医科大学校心理学科

- SY10-1 **「相互作用」から連想されること：総論的に**
佐野 信也 防衛医科大学校心理学科

- SY10-2 **養育環境との相互作用の観点から**
戸田 裕之 防衛医科大学校精神科学講座
- SY10-3 **発達障害的傾向を持つ青年・成人の社会参加を巡って**
糸井 岳史 路地裏発達支援オフィス
- SY10-4 **産業精神医学の観点から一個人と組織（職場）の相互作用**
井上 幸紀 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学
- SY10-5 **社会と個人の相互作用を踏まえたうつ病治療論**
北川 信樹 北大通こころのクリニック

シンポジウム11

多様なうつ病の治療最適化を目指して：うつ病に対する精神療法的アプローチ

7月28日(土) 9:00～11:00

京王プラザホテル本館4F 第3会場「花B」

オーガナイザー 中川 敦夫 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター

【趣旨・狙い】

うつ病治療において精神療法は薬物療法とならんで重要な役割を果たす。これまでは精神療法について、それぞれのアプローチの観点から、各々の精神療法の効果やその相違についての発言はあったものの、精神療法のモダリティを超えて議論されることは少なかった。本シンポジウムでは、わが国の臨床・研究の最前線で活躍されている精神科医の方々に集まっていただき、多様な病態を有するうつ病における精神療法の役割・意義を、最近の知見を紹介しながらそれぞれの観点から検討し、さらに精神療法のモダリティを超えて、精神療法の今後の展望についてをディスカッションしていきたい。

- 座 長** 中川 敦夫 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター
佐渡 充洋 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 / 慶應義塾大学ストレス研究センター
- SY11-1 **支持的精神療法**
木村 宏之 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野
- SY11-2 **多様なうつ病の治療最適化を目指して：
うつ病に対する精神療法的アプローチマインドフルネスの立場から**
佐渡 充洋 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 / 慶應義塾大学ストレス研究センター
- SY11-3 **うつ病に対する対人関係療法 IPT (Interpersonal Psychotherapy) の現状
と日常臨床での応用：短縮版 IPT (IPT-B) の知見を参考に**
宗 未来 東京歯科大学市川総合病院精神科
- SY11-4 **うつ病に対する認知行動療法：エビデンスをつくり、普及へ**
中川 敦夫 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター
- SY11-5 **うつ病治療における力動的精神療法の意義**
平島 奈津子 国際医療福祉大学三田病院精神科

シンポジウム12 うつ病の多様性と混在する辺縁疾患の理解と治療

7月28日(土) 9:00~11:00

京王プラザホテル本館4F 第4会場「花C」

オーガナイザー 徳永 雄一郎 医療法人新光会不知火病院

【趣旨・狙い】

精神疾患全体を見ても時代の影響を受け、精神疾患の軽症化や多様性が指摘されている。統合失調症の有病率は0.7~0.8%と指摘されてきた。しかし、近年興奮や幻覚妄想状態で入院に至る例は激減し、各精神科病院の病床減の大きな要因になっている。うつ病においても多様性や軽症化が指摘されている。軽症化や多様性は、診断確定ができにくく、治療方針も立てにくい。うつ病を中心に精神疾患への社会の理解が深まり、医療機関から事業所のメンタルヘルスに至るまで、精神科医療者の社会的責任は重要性を増す一方である。しかしながら、うつ病と辺縁疾患との境界も曖昧になってきている今日、辺縁疾患との関連を再検討し、よりの確な治療に結びつけることは重要と考えられる。そこで、今回は軽症化や多様性といった変化から、今日的うつ病や辺縁疾患との関係性を論じてもらい、それぞれの病態に応じた治療の在り方について討論してもらおう。

座長

須賀 英道 龍谷大学短期大学部社会福祉学科
衛藤 暢明 福岡大学医学部精神医学教室

SY12-1 難治性うつ病とシゾイド性格

松下 満彦 不知火病院 / 福岡大学医学部精神医学教室

SY12-2 うつ病とパーソナリティ障害の合併と治療について

江崎 幸生 藤田保健衛生大学医学部精神神経科学講座

SY12-3 心理学的観点から難治性うつ状態の背景にあるものを探る試み

栗原 真理子 杏林大学医学部精神神経科学教室

SY12-4 自殺企図者の分析から見たうつ病と周辺疾患

衛藤 暢明 福岡大学医学部精神医学教室

シンポジウム13 精神科看護から考える今日的うつ病の外来治療

7月28日(土) 14:30~16:30

京王プラザホテル本館4F 第2会場「花A」

オーガナイザー 松原 六郎 公益財団法人松原病院

【趣旨・狙い】

精神科や心療内科の外来ではうつ病患者の増加が著しい。そのなかで、うつ病の病態にも変化が認められ、軽症化や多様性、さらには発達障害の台頭など議論に事欠かない。変化は受診者の意識にも認められ、他罰性や攻撃性の強さが目立ってきている。このような時代的变化を受けて、対応にも工夫が必要とされるのは医師だけでなく、少ない人数で働く外来看護師にも同様の指摘ができる。外来での看護師の役割は、診察前の待合室の患者の観察や対応、診察後の反応、自殺の切迫感の有無、医師の診療内容の補填など診察室以外での種々な情報収集と対応が必要になる。さらに近年受療者の他罰性の高まりに応じて、外来看護にもうつ病へのさらなる深い理解と、対応上の工夫が必要とされる。そこで、本シンポジウムでは外来看護を積極的に展開している医療機関の看護スタッフから、多様化したうつ病の看護対応について議論してもらおう。

座長

松原 六郎 公益財団法人松原病院
有馬 新路 社会医療法人緑峰会養南病院

SY13-1 医師と協働して外来治療を支える看護カウンセリング外来の工夫

吉野 賀寿美 五稜会病院

- SY13-2 復職支援におけるチーム医療としての看護の役割
中村 明子 医療法人社団更生会草津病院
- SY13-3 ストレスケア病棟でのうつ病の攻撃性から考える外来治療
松尾 富佐子 不知火病院
- SY13-4 医師の立場から見た精神科診療所における看護の役割
田中 理香 スタジオリカクリニック

シンポジウム 14 Distinct entityとしてのうつ病を再考する

7月28日(土) 14:30～16:30

京王プラザホテル本館 4F 第3会場「花B」

オーガナイザー 大坪 天平 東京女子医科大学東医療センター精神科

【趣旨・狙い】

うつ病は各個人の頭の中(脳)で起こっている変化、つまり脳病の一つであるはずである。しかし、その割には時代や社会情勢によって変化する流行すたりがあるのも事実である。過去20年間のうつ病の変化を一言でいうと多様化であり、多様化の最大の原因はうつ病の軽症化であるともいえる。軽症化の原因をあげだすときりがないが、このような時だからこそ、本物のうつ病、真のうつ病、うつ病の中核群について再考することが重要ともいえる。

そもそも、多くの臨床家は、伝統的うつ病診断とDSMに代表される操作的診断のダブル・スタンダードの中にもがいている。しかし、その伝統的うつ病診断とDSMの大うつ病性障害いずれも、本物のうつ病、真のうつ病、うつ病の中核群を明確にできているわけではない。

他から区別できるdistinct entityとしてのうつ病という病気が存在するのかもしれないのか、このシンポジウムで討論したい。

座長 大坪 天平 東京女子医科大学東医療センター精神科

- SY14-1 **Distinct entityとしてのうつ病を再考する**
大坪 天平 東京女子医科大学東医療センター精神科
- SY14-2 **精神科クリニックにおけるうつ病プラセボ反応性と薬剤反応性から見たうつ病と治療選択**
渡部 芳徳 市ヶ谷ひもろぎクリニック
- SY14-3 **脳機能画像研究からみたうつ病の異種性**
岡本 泰昌 広島大学医歯薬保健学研究科精神神経医科学
- SY14-4 **臨床にとって有用なうつ病概念を求めて**
大前 晋 国家公務員共済組合連合会虎の門病院精神科

自殺予防研修会

10エッセンシャルズ研修会：複雑事例の読み解き方と支援の構築

7月27日(金) 8:30～11:00

京王プラザホテル本館 42F 第6会場「高尾」

オーガナイザー 河西 千秋 札幌医科大学医学部神経精神医学講座

【趣旨・狙い】

自殺の予防、そして自殺の後に遺された人へのケアを含む事後対応は、精神保健・福祉の中で重要な領域ですが、専門職や、対人支援従事者のほとんどは卒前・卒後教育で自殺予防学を学ぶ機会がなく、その多くが自殺関連行動への対応について知識・技量の不足を自覚し、困難感を感じていることが調査により明らかにされています。本研修会では、自殺リスクを抱える複雑事例について、自殺予防対策の専門家によるレクチャーが行われ、その上で、所定の教育モジュールを用いた模擬症例検討が、専門家のファシリテーションにより実施されます。受講者は、複雑、かつ自殺のリスクを有する症例について、そのリスク・アセスメントと問題解決アプローチの知識と技量を多様な観点から学び、習得することができます。なお、この研修プログラムは、日本自殺予防学、日本うつ病学会総会ですでに経年的に実施されており、地域自殺予防対策にも広く活用されています。

座長

河西 千秋 札幌医科大学医学部神経精神医学講座

講師、ファシリテーター

河西 千秋 札幌医科大学医学部神経精神医学講座

張 賢徳 帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科

太刀川 弘和 筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学

井上 佳祐 横浜市立大学附属市民総合医療センター精神医療センター

川原 庸子 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 / 玉名病院

津山 雄亮 札幌医科大学医学部神経精神医学講座

自殺対策委員会企画シンポジウム

がん患者の自殺リスクに立ち向かうー最新の動向とエビデンスー

7月28日(土) 14:30～16:30

京王プラザホテル本館 4F 第5会場「花D」

オーガナイザー 張 賢徳 帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科

【趣旨・狙い】

ライフスタイルの変化や人口の高齢化に伴い、がん患者数が増加している。がんはもはや特別な病気ではなく、誰もが罹患する可能性のある身近な病気である。その認識は少しずつ広がっているが、しかし、やはりがんの診断を受けると、誰しも精神的な衝撃を受けるものである。がんの告知後に、約半数の患者さんが適応障害(不安抑うつ状態)になることはよく知られている。また、がん患者さんに起こる自殺事例は口承で臨床現場に伝えられてきた。自殺前の心理状態としては抑うつ状態があったものと推察される。がん患者さんの抑うつへの対処と自殺予防は非常に重要なテーマである。

本シンポジウムでは、これまでの研究で見出されてきたエビデンスを重視して論を進めたい。がん患者さんの自殺の実態について国内の調査結果を基に検討する。抑うつ状態への対処と自殺予防については、薬物療法ならびに非薬物療法のエビデンスを基に検討し、より適切な方策を考えたい。

座長

大塚 耕太郎 岩手医科大学医学部神経精神科学講座

張 賢徳 帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科

SS-1

がん患者の自殺問題に関する動向

河西 千秋 札幌医科大学医学部神経精神医学講座

- SS-2 **がん患者の抑うつと自殺リスクに対する薬物療法のエビデンス**
 稲垣 正俊 島根大学医学部精神医学講座
- SS-3 **がん患者の抑うつに対する非薬物療法のエビデンス**
 清水 研 国立がん研究センター中央病院
- 指定発言 大西 秀樹 埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科
 太刀川 弘和 筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学

双極性障害委員会企画シンポジウム 安全で効果的な双極性障害の薬物療法 update

7月28日(土) 9:00～11:00

京王プラザホテル本館4F 第5会場「花D」

オーガナイザー 大森 哲郎 徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野

【趣旨・狙い】

双極性障害委員会では毎年シンポジウムを開催しているが、今年は久しぶりに薬物療法を取り上げることになった。新たな治療薬が導入され、新たなエビデンスも加わって、治療選択肢は増えている。しかし、何がベストの選択かという診察室の切実な問いに安直な解答はない。幸い、うつ病学会双極性障害治療ガイドラインが2017年11月に改訂されているので参照したい。ガイドラインでは躁病エピソード、うつ病エピソード、維持期という治療時期に分けた記載になっているが、本シンポジウムでは切り口を変えて、気分安定薬と抗精神病薬という治療薬ごとに特徴や使用法を論じていただく。抗うつ薬使用の是非も引き続き考えるべきテーマである。経過や状態像によっては、複雑な多剤併用となることもある。薬剤指導の現場の声も聞いてみたい。

座長

大森 哲郎 徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野
 白川 治 近畿大学医学部神経精神医学教室

- BS-1 **気分安定薬の選択と使用法**
 寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座
- BS-2 **抗精神病薬の選択と使用法**
 山田 和男 東北医科薬科大学病院精神科
- BS-3 **抗うつ薬使用の是非**
 田中 輝明 KKR 札幌医療センター精神科
- BS-4 **双極性障害治療を薬剤師の立場から支援する**
 谷藤 弘淳 医療法人有恒会こだまホスピタル薬剤部

多職種連携委員会企画シンポジウム がん患者に対するメンタルサポート

7月27日(金) 9:00~11:00

京王プラザホテル本館4F 第5会場「花D」

オーガナイザー

向笠 章子

広島国際大学大学院心理科学研究科実践臨床心理学専攻

【趣旨・狙い】

がん患者にみられるうつ病の有病率は3-10%程度であるが、抑うつ状態を合わせると有病率は15-40%にのぼる。高い割合の抑うつ状態と一般病院入院患者の自殺が身体疾患では、がんが最多であることの報告がある。治療において良好な緩和ケアを受けることやチーム医療の重要性などが注目されているが、まだ、充分ではないことが伺える。そのため身体的にも精神的にも社会的にもがん患者が背負う様々な苦勞を、支援するためにこのシンポジウムでは、医師・看護師・心理士・社会保険労務士という多岐の職種からがん患者に対するメンタルサポートの観点を報告して頂き、会場でのディスカッションを望んでいる。

座長

向笠 章子

広島国際大学大学院心理科学研究科実践臨床心理学専攻

山口 律子

日立キャピタル損害保険株式会社

CS-1

がんサバイバーの再発不安の緩和に対する新たな取り組み

明智 龍男

名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野

CS-2

がん患者に対するメンタルサポート；看護師の視点から

樫野 香苗

名古屋市立大学看護学部

CS-3

がん患者への心理職によるメンタルサポート

栗原 幸江

がん・感染症センター都立駒込病院緩和ケア科 /
認定NPO 法人マギーズ東京ヒューマンサポートチーム

CS-4

がん患者の就労支援と社会保険労務士の関わり

近藤 明美

近藤社会保険労務士事務所

倫理委員会企画研修会

7月28日(土) 11:10~12:10

京王プラザホテル本館4F 第5会場「花D」

オーガナイザー

秋山 剛

NTT東日本関東病院

【趣旨・狙い】

2017年4月14日に、厚生労働省個人情報保護委員会から「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」が発表され、これを受けて、2017年9月16日に、日本精神神経学会から「症例報告を含む医学論文及び学会発表における患者プライバシー保護に関するガイドライン」の改訂版が発表されました。これらの動きを踏まえて、うつ病学会でも、症例報告を行う際には文書による説明と同意について明記することを求めることになりました。この講習会では、こういった問題に関する会員からの質問や意見、学会発表抄録の採否に関するプログラム委員が考える検討点などについて情報を収集し、これらにお答えいただく形で、この分野の第一人者である武藤香織先生から講演をいただくことになっています。症例報告に関心がおありの会員には、大変役立つ内容であると思いますので、是非ご聴講ください。

座長

秋山 剛

NTT東日本関東病院

ES-1

研究対象者への倫理的配慮について

武藤 香織

東京大学医科学研究所公共政策研究分野

第12回うつ病診療講習会

うつ病の寛解から完治・社会復帰へ向けてー職場のケース

7月27日(金) 13:40~18:40

京王プラザホテル本館 42F 第6会場「高尾」

オーガナイザー 川崎 弘詔 福岡大学医学部精神医学教室

【趣旨・狙い】

うつ病診療の実際を広く医療職に理解していただく事を目的にしている。特に職場復帰のケースを扱うので、産業医を対象に、単位の取得が可能にしている。特に、「うつ病の寛解から、完治へ」という点を目標にしているため、コメディカルの参加も期待している。また、精神科医も対象にし、復職に関する知識を取得していただく。現代型うつ病のケースを取り扱っているのも、うつ病学会の中で唯一のプログラムである。

- DS-1 **うつ病診療での40年間の変化と職場のメンタルヘルス**
五十嵐 良雄 メディカルケア虎ノ門
- DS-2 **薬物療法の留意点**
野村 総一郎 一般社団法人日本うつ病センター
- DS-3 **対応の難しい「うつ病」患者ー自己愛的なパーソナリティとの関連でー**
衛藤 暢明 福岡大学医学部精神医学教室
- DS-4 **職場復帰のポイントー職場産業医の視点からー**
小川 哲男 自衛隊福岡病院精神科
- 症例解説 新開 隆弘 産業医科大学医学部精神医学教室
衛藤 暢明 福岡大学医学部精神医学教室

学会奨励賞・下田光造賞 受賞講演

7月28日(土) 11:10~12:10

京王プラザホテル本館4F 第4会場「花C」

座長

尾崎 紀夫

名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

1. 学会奨励賞

医学分野

P-75 治療抵抗性患者のプロファイリングーRCTベースの2年間の調査ー

越川 陽介 関西医科大学精神神経科学教室

P-105 福島第一原子力発電所事故3年目の電力会社職員における心的外傷後ストレス症状と抑うつ症状の併存に寄与する因子

谷知 正章 防衛医科大学校精神科学講座

P-110 休職中のうつ病勤労者の復職決定時の評価による復職継続予測

堀 輝 産業医科大学医学部精神医学教室

医療保健分野

P-15 行動活性化による抑うつ症状と不安症状の改善経路の検討

ーネットワークアナリシスー

青木 俊太郎 北海道医療大学大学院心理科学研究科

2. 2018年 下田光造賞

KS Social support helps protect against perinatal bonding failure and depression among mothers: a prospective cohort study

大原 聖子 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

15th JSMD プログラム

ランチョンセミナー1～10

イブニングセミナー1～2

共催シンポジウム

共催市民公開講座



ランチョンセミナー 1

2018年7月27日(金) 12:30～13:30

京王プラザホテル 南館 4F 第1会場「錦」

LS1 休職中うつ病勤労者の治療戦略

座長	川崎 弘詔	福岡大学医学部精神医学教室
演者	堀 輝	産業医科大学医学部精神医学教室
共催	武田薬品工業株式会社メディカルアフェアーズ部/ ルンドベック・ジャパン株式会社メディカルアフェアーズ部	

ランチョンセミナー 2

2018年7月27日(金) 12:30～13:30

京王プラザホテル 本館 4F 第2会場「花A」

LS2 うつ病治療におけるリカバリー・ギャップを考える ～外来の10分間で我々は何ができるのか～

座長	樋口 輝彦	一般社団法人日本うつ病センター／国立精神・神経医療研究センター(名誉理事長)
演者	菊地 俊暁	慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
共催	ファイザー株式会社／大日本住友製薬株式会社	

ランチョンセミナー 3

2018年7月27日(金) 12:30～13:30

京王プラザホテル 本館 4F 第3会場「花B」

LS3 ポジティブ心理学からみたうつ病へのアプローチ

座長	白川 治	近畿大学医学部精神神経科学教室
演者	三村 将	慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
共催	日本イーライリリー株式会社／塩野義製薬株式会社	

ランチョンセミナー 4

2018年7月27日(金) 12:30～13:30

京王プラザホテル 本館 4F 第4会場「花C」

LS4 うつ病診療の質を高める睡眠指導、睡眠医療

座長	石郷岡 純	CNS薬理研究所
演者	三島 和夫	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所睡眠・覚醒障害研究部
共催	アステラス製薬株式会社	

ランチオンセミナー5

2018年7月27日(金) 12:30～13:30

京王プラザホテル 本館4F 第5会場「花D」

LS5 高齢者うつ病の病態と治療 ～血管性うつ病や認知症との関連・治療抵抗性を含めて～

座長	尾崎 紀夫	名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野
演者	木村 真人	日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科
共催	大塚製薬株式会社	

ランチオンセミナー6

2018年7月28日(土) 12:20～13:20

京王プラザホテル 南館4F 第1会場「錦」

LS6 双極性感情障害の診断と治療－双極性うつ病を中心として－

座長	寺尾 岳	大分大学医学部精神神経医学講座
演者	小山 司	大谷地病院臨床研究センター
共催	共和薬品工業株式会社	

ランチオンセミナー7

2018年7月28日(土) 12:20～13:20

京王プラザホテル 本館4F 第2会場「花A」

LS7 米国における子供のうつ病の診断と治療

座長	貝谷 久宣	医療法人和楽会
演者	内田 舞	ハーバード大学医学部精神科 / マサチューセッツ総合病院小児うつ病センター
共催	持田製薬株式会社 / 田辺三菱製薬株式会社 / 吉富薬品株式会社	

ランチオンセミナー8

2018年7月28日(土) 12:20～13:20

京王プラザホテル 本館4F 第3会場「花B」

座長	上島 国利	昭和大学(名誉教授)
LS8-1	うつ病の病態仮説：炎症性神経障害仮説	
	岩田 正明	鳥取大学医学部脳神経医科学講座精神行動医学分野
LS8-2	うつ病医療の課題：薬物療法の将来展望を中心に	
	樋口 輝彦	一般社団法人日本うつ病センター / 国立精神・神経医療研究センター(名誉理事長)
共催	MSD株式会社	

ランチョンセミナー9

2018年7月28日(土) 12:20～13:20

京王プラザホテル 本館 4F 第4会場「花C」

LS9 その情報は、治療の役に立つのか? – RCTデータのプロファイリング –

座長	杉山 暢宏	信州大学医学部保健学科実践作業療法学
演者	加藤 正樹	関西医科大学精神神経科学教室
共催	Meiji Seika ファルマ株式会社	

ランチョンセミナー10

2018年7月28日(土) 12:20～13:20

京王プラザホテル 本館 4F 第5会場「花D」

LS10 双極性障害の疾患特性・診断・治療について

座長	藤村 洋太	東京医科大学八王子医療センターメンタルヘルス科
演者	木村 敏史	グラクソ・スミスクライン株式会社開発本部メディカル・アフェアーズ部門
共催	グラクソ・スミスクライン株式会社	

イブニングセミナー1

2018年7月27日(金) 18:30～19:30

京王プラザホテル 本館 4F 第2会場「花A」

EVS1 「認知症診療における画像診断」 – うつ病との鑑別の困難な認知症診療に画像診断の出来ること –

座長	舘野 周	日本医科大学精神医学
演者	清水 聡一郎	東京医科大学高齢総合医学分野
共催	日本メジフィジックス株式会社	

イブニングセミナー2

2018年7月27日(金) 18:30～19:30

京王プラザホテル 本館 4F 第4会場「花C」

EVS2 成人のADHD診療 – 病態に即した対応を目指して –

座長	稲垣 中	青山学院大学教育人間科学部教育学科
演者	近藤 毅	琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座
共催	ヤンセンファーマ株式会社メディカルアフェアーズ本部	

共催シンポジウム

2018年7月28日(土) 9:00~11:00

京王プラザホテル 南館 4F 第1会場「錦」

COS Bipolar Disorders: Is the Etiology Neurodevelopmental or Neurodegenerative?

【趣旨・狙い】

双極性障害は精神病理学的にヘテロな疾患である。双極性障害の診断及び治療は、症状の重複、患者の症状の異質性、併存症及び残存症状によって複雑になるが、様々な病態生理に基づいた研究が進み、包括的な治療の重要性が示唆されている。しかし、統合失調症と双極性障害の病態の類似性が認められているにもかかわらず、統合失調症の発症が神経の発達障害と関連するのに対し、双極性障害の病態はいまだ不明確である。遺伝学および神経画像研究のクラスター分析により、両疾患は異なる認知プロファイルを示すことが明らかになった。双極性障害のみならず主な精神疾患の予後を改善するために、診断名ごとに異なる薬物治療を選択するだけでなく、各疾患で共通する要因にも注目した包括的な治療アプローチが必要とされる。本シンポジウムでは、精神疾患で共通して認められる認知機能障害を中心に双極性障害の新たな治療アプローチを解説する。

座 長	三村 将	慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
-----	------	--------------------

COS-1	双極性障害の認知機能障害の経時的变化 —新たな治療戦略に向けて—
	加藤 正樹 関西医科大学精神神経学教室

COS-2	双極性障害の認知機能障害の評価と治療：国際双極性障害学会 (ISBD) -Cognition Task Forceが目指すもの
	住吉 太幹 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所児童・予防精神医学研究部 (併)トランスレーショナル・メディカルセンター情報管理・解析部

COS-3	Diagnosis of Mood Disorders: Where are We Now?
	Allan H. Young Centre for Affective Disorders Institute of Psychiatry, Psychology & Neuroscience (IoPPN) King's College London, UK

共 催	大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部
-----	-------------------------

共催市民公開講座

2018年7月28日(土) 14:00～16:00

京王プラザホテル 南館 4F 第1会場「錦」

COL 第15回日本うつ病学会/第20回JDC市民公開講座
うつ病の理解と養生～栄養と活動～

共 催

日本うつ病学会／一般社団法人日本うつ病センター (JDC) /
日本イーライリリー株式会社／塩野義製薬株式会社

後 援

東京都、東京都医師会、一般社団法人東京精神科病院協会
一般社団法人東京精神神経科診療所協会

【趣旨・狙い】

うつ病を含む気分障害と診断された人は、約20年前に比べると約2.5倍に増加し、100万人程度と報告されています。しかし、精神科や心療内科などを受診できないまま過ごされている人もまだ多いのではないかと推察されます。うつ病という疾患名自体は、ここ数年で、医療関係者のみならず、多くの一般の方々に認知されることとなってまいりましたが、まだまだ、当事者も含めうつ病によって、どのような生活上の支障をきたすのか、また、周囲がどのように支援をすればよいかについての理解が求められる状況です。本講座では、この病気の理解を深め、うつ病で困らている方に対してどのようなサポートをしていくか、また、患者がストレスを感じる際に、われわれはどのようにケアをするか、皆さんと共に考える機会にしたいと考えています。

司 会

【講演1】 井上 猛 東京医科大学精神医学分野 / 東京医科大学病院 メンタルヘルス科
【講演2】 樋口 輝彦 一般社団法人日本うつ病センター / 国立精神・神経医療研究センター(名誉理事長)

<プログラム>

開会挨拶・総合司会 井上 猛 東京医科大学精神医学分野 / 東京医科大学病院メンタルヘルス科

【講演1】 うつ病の理解

COL-1 うつ病を知る：周囲の接し方・支え方

尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

COL-2 わたしのうつ病体験談

小山 明子 女優

【講演2】 うつ病の養生～栄養と活動～

COL-3 食でうつに打ち克つ

松岡 豊 国立がん研究センター社会と健康研究センター健康支援研究部

COL-4 笑って動いて、心を軽く

松井 浩 有限会社ヒューマンモア

閉会挨拶 樋口 輝彦 一般社団法人日本うつ病センター / 国立精神・神経医療研究センター(名誉理事長)

入 場 料

無料

定 員

250名

参加希望の方へのご案内

この市民公開講座は一般市民の方を対象にしております。

第15回日本うつ病学会総会のプログラムの一つでもあります、一般市民の方の参加を優先いたします。

第15回日本うつ病学会総会参加者の方には恐縮ですが、入場を制限させていただきます。

7月27日(金)7:30～総合受付にて市民公開講座参加を希望する方、先着30名様に市民公開講座入場券をお配りいたします。ご希望の方は総合受付にてお受取りください。

30名に達した時点で締切らせていただきますのであらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

15th JSMD プログラム

一般演題(ポスター)



一般演題 (ポスター)

1. 薬物療法I

7月28日(土) 13:25～13:55

京王プラザホテル 南館 5F「エミネンス」

座長：吉尾 隆 東邦大学薬学部医療薬学教育センター臨床薬学研究室

P-1

(研究発表)

双極性障害うつ症状に対する抗精神病薬の有効性：系統的レビューとメタ解析

萩 勝彦¹⁾、野坂 忠史¹⁾、Andrei Pikalov²⁾、Antony Loebel²⁾、Christoph Correll³⁾

- 1) 大日本住友製薬メディカルアフェアーズ部、
- 2) サノビオン・ファーマシューティカルズ・インク、
- 3) ザッカーヒルサイドホスピタル・サイキアトリーリサーチ

P-2

(研究発表)

双極性障害うつ症状に対する抗精神病薬の安全性・忍容性：系統的レビューとメタ解析

萩 勝彦¹⁾、野坂 忠史¹⁾、Andrei Pikalov²⁾、Antony Loebel²⁾、Christoph Correll³⁾

- 1) 大日本住友製薬メディカルアフェアーズ部、
- 2) サノビオン・ファーマシューティカルズ・インク、
- 3) ザッカーヒルサイドホスピタル・サイキアトリーリサーチ

P-3

(研究発表)

双極性障害うつ症状に対する抗精神病薬のリスク・ベネフィット評価：系統的レビューとメタ解析

野坂 忠史¹⁾、萩 勝彦¹⁾、Andrei Pikalov²⁾、Antony Loebel²⁾、Christoph Correll^{3,4,5,6)}

- 1) 大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部、
- 2) Sunovion Pharmaceuticals, Inc.,
- 3) The Zucker Hillside Hospital, Psychiatry Research.,
- 4) Hofstra Northwell School of Medicine.,
- 5) The Feinstein Institute for Medical Research.,
- 6) Charite Universitätsmedizin, Department of Child and Adolescent Psychiatry.

P-4

(研究発表)

双極性障害うつ症状に対する各種治療薬のリスク・ベネフィット評価：系統的レビューとメタ解析

野坂 忠史¹⁾、萩 勝彦¹⁾、Andrei Pikalov²⁾、Antony Loebel²⁾、Christoph Correll^{3,4,5,6)}

- 1) 大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部、
- 2) Sunovion Pharmaceuticals, Inc.,
- 3) The Zucker Hillside Hospital, Psychiatry Research.,
- 4) Hofstra Northwell School of Medicine.,
- 5) The Feinstein Institute for Medical Research.,
- 6) Charite Universitätsmedizin, Department of Child and Adolescent Psychiatry.

P-5

(研究発表)

双極性うつ病に対するolanzapineとescitalopram併用療法の非対照試験

亀山 梨絵¹⁾、井上 猛²⁾、篠原 かほる³⁾、川村 邦彦⁴⁾、上村 恵⁵⁾、仲唐 安哉⁶⁾、藤井 泰⁷⁾、橋本 直樹¹⁾、北川 寛¹⁾、中川 伸⁸⁾、久住 一郎¹⁾

- 1) 北海道大学病院精神科神経科、
- 2) 東京医科大学病院メンタルヘルス科、
- 3) 札幌鈴木病院、
- 4) 川村メンタルクリニック、
- 5) 市立札幌病院、
- 6) 中江病院、
- 7) 北海道立向陽ヶ丘病院、
- 8) 山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座

2. 薬物療法Ⅱ

2018年7月28日(土) 13:55～14:19

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：山田 和夫 東洋英和女学院大学 / 横浜尾上町クリニック

P-6

(研究発表)

精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究 (EGUIDEプロジェクト) 参加施設のうつ病治療の診療の質の評価

伊賀 淳一¹⁾、越智 紳一郎¹⁾、安田 由華²⁾、山本 智也³⁾、稲田 健⁴⁾、渡邊 衡一郎⁵⁾、橋本 亮太^{2,6)}、上野 修一¹⁾

- 1) 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座、
- 2) 大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学講座精神医学教室、3) 大阪大学医学部附属病院薬剤部、
- 4) 東京女子医科大学医学部精神医学講座、5) 杏林大学大学院医学研究科精神神経科学教室、
- 6) 大阪大学大学院連合小児発達学研究科附属子どものこころの分子統御機構研究センター

P-7

(研究発表)

うつ病治療ガイドラインの教育効果についての検証： 平成28年度EGUIDEプロジェクトからの報告

坪井 貴嗣¹⁾、高江洲 義和¹⁾、田形 弘実²⁾、辻野 尚久²⁾、稲田 健³⁾、橋本 亮太^{4,5)}、渡邊 衡一郎¹⁾

- 1) 杏林大学医学部精神神経科学教室、2) 東邦大学医学部精神神経医学講座、
- 3) 東京女子医科大学医学部精神医学講座、
- 4) 大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科附属子どものこころの分子統御機構研究センター疾患関連分子解析部門、
- 5) 大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学講座精神医学教室

P-8

(研究発表)

うつ病患者における過食傾向の有無とミルタザピンの継続率に関する検討

岡 松彦¹⁾、梅津 弘樹²⁾、三井 信幸¹⁾、久住 一郎¹⁾

- 1) 北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室、2) 市立稚内病院

P-9

(研究発表)

高齢うつ病患者における、SSRIとミルタザピンの有用性の比較 ～GUNDAM studyより～

緒方 治彦¹⁾、越川 陽介¹⁾、坂井 志帆¹⁾、板東 宏樹²⁾、西田 圭一郎¹⁾、砂田 尚孝¹⁾、畑下 嘉之²⁾、嶽北 佳輝¹⁾、加藤 正樹¹⁾

- 1) 関西医科大学総合医療センター精神神経科教室、2) セフィロト病院

3. 薬物療法Ⅲ

2018年7月28日(土) 13:25～13:55

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：吉村 玲児 産業医科大学医学部精神医学教室

P-10

(実践発表)

患者心理に配慮したうつ病の治療終結 —中止後症状を認めた抗うつ薬を減量・中止できた3症例から—

田中 禎
ただしメンタルクリニック

P-11

(研究発表)

ルラシドンの双極I型障害の抑うつエピソード患者を対象とした6週間のプラセボ対照二重盲検検証的試験 (ELEVATE 試験) の成績加藤 忠史¹⁾、石郷岡 純²⁾、渡部 恵³⁾、藤森 智宏⁴⁾、増田 孝裕⁵⁾、樋口 輝彦^{6,7)}

- 1) 理化学研究所脳科学総合研究センター精神疾患動態研究チーム、
- 2) CNS薬理研究所、
- 3) 大日本住友製薬株式会社データサイエンス部、
- 4) 大日本住友製薬株式会社開発統括部、
- 5) 大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部、
- 6) 日本うつ病センター、
- 7) 国立精神・神経医療研究センター

P-12

(研究発表)

「D-細胞仮説」と視交叉上核D-ニューロンの重要性：リチウム有効性とリズム障害発症機序において

池本 桂子

いわき市立総合磐城共立病院精神科 (リエゾン科)

P-13

(研究発表)

抗うつ薬誘発性 bruxism: 文献的考察

齊尾 武郎

フジ虎ノ門整形外科病院内科・精神科

P-14

(研究発表)

うつ病モデル動物：嗅球摘出ラットの行動変化におけるアデノシンA1受容体作動薬 N6-シクロペンチルアデノシンの作用後藤 玲央¹⁾、大串 祐馬²⁾、川口 貴子²⁾、畑中 聡仁²⁾、吉良 健太郎²⁾、川崎 弘詔²⁾

- 1) 福岡大学医学部精神医学教室ニューロサイエンス・精神医学研究講座、
- 2) 福岡大学医学部精神医学教室

4. 薬物療法以外の治療法I

2018年7月28日(土) 13:55～14:25

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：野村 忍 早稲田大学人間科学学術院

P-15

(研究発表)

**行動活性化による抑うつ症状と不安症状の改善経路の検討
ーネットワークアナリシスー**青木 俊太郎^{1,2)}、高垣 耕企³⁾、河村 麻果⁴⁾、北川 信樹⁵⁾、坂野 雄二⁶⁾

- 1) 北海道医療大学大学院心理科学研究科、
- 2) 日本学術振興会特別研究員、
- 3) 広島大学大学院医歯薬保健学研究科、
- 4) ウェルネス望洋台医院、
- 5) 医療法人ライブフォレスト北大通こころのクリニック、
- 6) 北海道医療大学心理科学部

P-16

(研究発表)

青年期うつ病を対象とした行動活性化プログラムの長期的な効果：予備的検討高垣 耕企¹⁾、神人 蘭¹⁾、横山 仁史¹⁾、森 麻子¹⁾、岡本 百合²⁾、三宅 典恵²⁾、
下田 陽樹³⁾、川上 憲人⁴⁾、古川 壽亮⁵⁾、山脇 成人¹⁾、岡本 泰昌¹⁾

- 1) 広島大学大学院医歯薬保健学研究科精神神経医科学、
- 2) 広島大学保健管理センター、
- 3) 岩手医科大学衛生学公衆衛生学、
- 4) 東京大学医学系研究科精神保健学、
- 5) 京都大学大学院医学研究科健康増進・行動学分野

P-17

(実践発表)

開頭術後の抗てんかん薬投与下において電気けいれん療法が奏功した妄想性うつ病患者者の一例深澤 祐樹¹⁾、玉田 有¹⁾、村松 友佳¹⁾、大前 晋²⁾

- 1) 虎の門病院分院精神科、
- 2) 虎の門病院精神科

P-18

気分障害患者に対する高照度光療法と脳画像研究

(研究発表)

平川 博文、秦野 浩司、白浜 正直、河野 健太郎、寺尾 岳
大分大学医学部精神神経医学講座

P-19

抑うつ障害に対する光トポグラフィーに加齢が及ぼす影響の性差

(研究発表)

橋本 和明^{1,4)}、竹内 武昭¹⁾、根本 隆洋²⁾、杉山 邦男³⁾、芦原 睦⁴⁾、端詰 勝敬¹⁾
1) 東邦大学医療センター大森病院心療内科、2) 東邦大学医療センター大森病院精神神経科、
3) 東邦大学医療センター大森病院臨床生理機能検査部、4) 中部労災病院心療内科

5. 薬物療法以外の治療法II

2018年7月28日(土) 13:25～14:01

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：山岡 功一 神経科浜松病院

P-20

うつ病の回復度の差からみた外来治療と入院治療
ーストレスケア病棟における治療からー

(実践発表)

荒木 健介、島松 まゆみ、高田 和秀、奥村 幸祐、小柳 綾、徳永 雄一郎
不知火病院

P-21

ストレスケア病棟におけるうつ病者の感情の抑圧と表出の一症例

(実践発表)

松下 満彦^{1,2)}、高田 和秀^{1,2)}、島松 まゆみ¹⁾、奥村 幸祐¹⁾、川崎 弘詔²⁾、徳永 雄一郎¹⁾
1) 不知火病院、2) 福岡大学医学部精神医学教室

P-22

ストレスケア病棟における作業療法士の役割ー作業療法士部会からの各病院の
報告からー

(実践発表)

山本 久美子¹⁾、森陰 瑞生²⁾、徳永 雄一郎¹⁾、松原 六郎²⁾、市来 真彦³⁾
1) 不知火病院、2) 松原病院、3) 東京医科大学精神医学分野

P-23

ストレスケア病棟における退院後の生活に向けた取り組みについて
ー作業療法士をリーダーとしたグループの検討ー

(実践発表)

松原 六郎、吉田 竜宏
松原病院診療技術部リハビリテーション科

P-24

集団内では課題が見えにくい双極性感情障害患者に対する作業療法

(実践発表)

赤松 まど香
あさかホスピタル

P-25

精神科救急としてのストレスケア病棟におけるリハビリテーションについて

(実践発表)

松原 六郎、森陰 瑞生
松原病院

6. 薬物療法以外の治療法Ⅲ

2018年7月28日(土) 14:01～14:25

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：宗 未来 東京歯科大学市川総合病院精神科

P-26

(研究発表)

看護師に対するグループスーパービジョンを導入した認知行動療法研修プログラムの効果－質的分析結果から－岡田 佳詠¹⁾、白石 裕子²⁾、國方 弘子³⁾

- 1) 国際医療福祉大学成田看護学部看護学科、2) 国際医療福祉大学福岡看護学部広域支援看護学領域、
- 3) 香川県立保健医療大学保健医療学部・大学院保健医療学研究科

P-27

(研究発表)

うつ病に対する遠隔認知行動療法の実施可能性の検討加藤 典子^{1,2)}、中川 敦夫^{2,3)}、佐々木 洋平^{1,2)}、中尾 重嗣²⁾、武智 小百合²⁾、岸本 泰士郎²⁾、三村 将²⁾、堀越 勝¹⁾

- 1) 国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター、
- 2) 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、3) 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター

P-28

(実践発表)

ビデオ会議システムを用いた遠隔認知行動療法の開発：認知行動療法の普及を見据えて佐々木 洋平^{1,3)}、中川 敦夫^{1,2)}、加藤 典子^{1,3)}、中尾 重嗣¹⁾、武智 小百合¹⁾、岸本 泰士郎¹⁾、堀越 勝³⁾、三村 将¹⁾

- 1) 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、2) 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター、
- 3) 国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

P-29

(実践発表)

うつ病の認知行動療法を実施した一例の長期経過

中尾 重嗣

慶應義塾大学病院精神神経科学教室

7. 薬物療法以外の治療法Ⅳ

2018年7月28日(土) 13:25～14:01

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：熊野 宏昭 早稲田大学人間科学学術院

P-30

(研究発表)

双極性うつ病の覚醒療法における初回断眠への反応性と最終転帰との関連鈴木 正泰¹⁾、Sara Dallaspezia²⁾、Clara Locatelli²⁾、内山 真¹⁾、Cristina Colombo²⁾、Francesco Benedetti²⁾

- 1) 日本大学医学部精神医学系、
- 2) Department of Clinical Neurosciences, Scientific Institute and University Vita-Salute San Raffaele, Milan, Italy

P-31

(研究発表)

**うつ病・双極性障害うつ状態の身体症状に対する鍼治療の効果
－Somatic Symptom Scale-8, Visual Analogue Scaleを指標として－**松浦 悠人¹⁾、渡部 芳徳^{2,3)}、向 ありさ¹⁾、古賀 義久^{1,3)}、安野 富美子^{1,3)}、坂井 友実^{1,3)}

- 1) 東京有明医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻鍼灸学分野、
- 2) 市ヶ谷ひもろぎクリニック、3) 東京有明医療大学保健医療学部鍼灸学科

P-32

(実践発表)

**うつ病入院治療におけるポジティブサイコロジー手法
ー支持的と能動的なポジティブサイコロジー手法と病理性への介入ー**
島松 まゆみ¹⁾、後藤 玲央²⁾、松下 満彦^{1,2)}、徳永 雄一郎^{1,2)}
1) 医療法人新光会不知火病院、2) 福岡大学医学部精神医学教室

P-33

(実践発表)

うつ病のためのメタ認知トレーニング(D-MCT)日本語版マニュアルの紹介
森重 さとり¹⁾、石垣 琢磨²⁾
1) ワールドMCT & CBT、2) 東京大学大学院総合文化研究科認知行動科学

P-34

(実践発表)

休職期間中に実施するマインドフルネスの効果
貝谷 久宣^{1,2)}、小松 智賀^{1,2)}、岸野 有里^{1,2)}、長谷川 明日香²⁾、長谷川 洋介²⁾
1) 医療法人和楽会心療内科・神経科赤坂クリニック、2) 東京マインドフルネスセンター

P-35

(実践発表)

抑うつと不安に対する外来集団マインドフルネスの効果
進藤 太郎^{1,2)}、野口 優佳¹⁾、仮屋崎 優樹子¹⁾、日高 真実¹⁾、坂本 純子¹⁾、黒木 久子¹⁾、
山口 雄三¹⁾、富永 信平¹⁾、小松 ゆみ¹⁾
1) 虹と海のホスピタル、2) 福岡大学医学部精神医学教室

8. 薬物療法以外の治療法V

2018年7月28日(土) 13:25～14:01

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：北川 信樹 北大通こころのクリニック

P-36

(研究発表)

医療機関に勤務する心理職の他職種協働スキルに関する実態調査
川島 義高¹⁾、米本 直裕^{1,2)}、山田 光彦¹⁾
1) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神薬理研究部、
2) 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻医療統計学分野

P-37

(実践発表)

**大学病院精神科でのコ・プロダクションの試み
ーうつ病・うつ状態からのリカバリー支援グループー**
山路 陽子、榊原 英輔、金原 明子、川上 慎太郎、森田 正哉、松岡 潤、矢野 健一、
石浦 朋子、仙川 小春、清野 知樹、近藤 伸介、笠井 清登
東京大学医学部精神医学教室

P-38

(研究発表)

うつ病再発予防教室がもたらす対処行動の変化と、性格傾向の関係について
古川 はるこ¹⁾、小川 佳那¹⁾、常泉 百合¹⁾、岡部 究¹⁾、岩下 正幸¹⁾、稲村 圭亮¹⁾、
眞鍋 貴子³⁾、伊藤 達彦²⁾、忽滑谷 和孝¹⁾、繁田 雅弘²⁾
1) 東京慈恵会医科大学附属柏病院精神神経科、2) 東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科、
3) 香川大学医学部附属病院精神科神経科

P-39

(研究発表)

うつ病の治療経過と症状の変化
徳永 雄一郎¹⁾、奥村 幸祐¹⁾、松下 満彦^{1,2)}、高田 和秀^{1,2)}、島松 まゆみ¹⁾、小柳 綾¹⁾、
原田 康平^{1,2)}、後藤 玲央^{1,2)}、川崎 弘詔²⁾
1) 不知火病院、2) 福岡大学医学部精神医学教室

P-40

うつ病に対する記憶書き換え作業

(研究発表)

平松 洋一¹⁾、山田 文紀¹⁾、村田 倫一¹⁾、関 陽一³⁾、横尾 瑞恵²⁾、野口 玲美¹⁾、
田中 真理²⁾、澁谷 孝之¹⁾、松澤 大輔^{1,2)}、清水 栄司^{1,2)}

- 1) 千葉大学子どものこころの発達教育研究センター、2) 千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学、
3) 千葉大学附属病院認知行動療法センター

P-41

抑うつにおける自己注目が外的刺激への反応低下によって増悪している可能性の検討

(研究発表)

荻島 大凱¹⁾、前田 駿太^{1,2)}、嶋田 洋徳³⁾

- 1) 早稲田大学大学院人間科学研究科、2) 日本学術振興会特別研究員、3) 早稲田大学人間科学学術院

9. 病態・症状・診断・評価I

2018年7月28日(土) 13:25～13:55

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：秦野 浩司 大分大学医学部精神神経医学講座

P-42

炭酸リチウムと抗精神病薬が感情障害患者の皮質下脳体積に与える影響についての検討

(研究発表)

橋本 直樹¹⁾、成田 尚¹⁾、岡田 直大²⁾、福永 雅喜³⁾、橋本 亮太^{4,5)}、久住 一郎¹⁾

- 1) 北海道大学大学院医学研究院精神医学教室、2) 東京大学大学院医学系研究科精神医学分野、
3) 生理学研究所心理生理学研究部門、
4) 大阪大学大学院連合小児発達学研究科附属子どものこころの分子統御機構研究センター、
5) 大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室

P-43

貧血のない鉄欠乏状態 (Non-anaemic iron deficiency : NAID) からの回復を通じた減薬とレジリエンス向上に対する一考察

(研究発表)

奥平 智之

医療法人山口病院 (川越)

P-44

血漿代謝産物を用いた選択的セロトニン再取り込み阻害薬の治療反応性の予測

(研究発表)

撰 尚之¹⁾、柴崎 千代¹⁾、加藤 隆弘²⁾、瀬戸山 大樹³⁾、高村 真弘¹⁾、吉野 敦雄¹⁾、
岡田 剛¹⁾、岡本 泰昌¹⁾、山脇 成人⁴⁾

- 1) 広島大学大学院医歯薬保健学研究科精神神経医学、2) 九州大学大学院医学研究院精神病態医学、
3) 九州大学大学院医学研究院臨床検査医学、4) 広島大学大学院医歯薬保健学研究科

P-45

炎症仮説に基づくうつ病の新たな治療の可能性

(研究発表)

岩田 正明、山梨 豪彦、常富 恭平、三浦 明彦、梶谷 直史、松尾 諒一、西口 毅、
兼子 幸一

鳥取大学医学部精神科

P-46

精神科クリニックにおける治療抵抗性うつ病の要因とその対策

(研究発表)

上田 均

もりおか心のクリニック

10. 病態・症状・診断・評価II

2018年7月28日(土) 13:55～14:25

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：鈴木 利人 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院

P-47

(研究発表)

乳がんサバイバーにおける血中n-3系脂肪酸と抑うつ症状の関連： 探索的横断研究

- 大久保 亮¹⁾、勝又 紀子²⁾、野口 普子¹⁾、浜崎 景³⁾、木下 貴之⁴⁾、松岡 豊¹⁾
1) 国立がん研究センター社会と健康センター健康支援研究部、
2) 森永乳業株式会社研究本部基礎研究所、3) 富山大学医学部公衆衛生学講座、
4) 国立がん研究センター中央病院乳腺外科

P-48

(研究発表)

fMRIと機械学習の活用によるうつ病の罹患経験の可視化

- 山本 哲也¹⁾、グレッグ シーグル²⁾、吉本 潤一郎³⁾
1) 徳島大学大学院社会産業理工学研究部、2) ピッツバーグ大学医学部精神医学講座、
3) 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科

P-49

(研究発表)

2型糖尿病患者のうつ状態に関連するパーソナリティ特性とコーピング特性

- 橋本 浩二郎¹⁾、大高 英之²⁾、村上 宏²⁾、中村 和彦¹⁾、菅原 典夫³⁾、大門 眞²⁾、
古郡 規雄¹⁾
1) 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、2) 弘前大学大学院医学研究科内分泌代謝内科学講座、
3) 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナルメディカルセンター情報
管理解析部

P-50

(研究発表)

拡散テンソル画像を用いた健常成人における感情気質と脳白質統合性との関連 の検討

- 秦野 浩司、平川 博文、寺尾 岳
大分大学医学部精神神経医学講座

P-51

(研究発表)

プラダー・ウィリー症候群における気分障害の検討

- 高橋 麻美^{1,2)}、儀藤 政夫¹⁾、尾形 広行²⁾、大戸 佑二³⁾、村上 信行³⁾、綾部 匡行⁴⁾、
井原 裕²⁾、永井 敏郎⁵⁾
1) 池澤神経科病院、2) 獨協医科大学埼玉医療センター精神科、
3) 獨協医科大学埼玉医療センター小児科、4) 国立成育医療研究センター、5) 中川の郷療育センター

11. 病態・症状・診断・評価III

2018年7月28日(土) 13:25～13:55

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：三井 信幸 北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室 / 北海道大学保健センター

P-52

(研究発表)

うつ病患者におけるFKBP5遺伝子多型と幼少期ストレス、気質、抑うつ症状と の関連

- 斉藤 拓¹⁾、戸田 裕之¹⁾、古賀 農人¹⁾、谷知 正章¹⁾、竹下 昇吾¹⁾、浅井 史穂¹⁾、
三井 由美²⁾、長峯 正典²⁾、清水 邦夫²⁾、吉野 相英¹⁾
1) 防衛医科大学校精神科学講座、2) 防衛医科大学校防衛医学研究センター行動科学研究部門

P-53

うつ病患者における血清TDP-43濃度：第2報

(研究発表)

市川 朝也¹⁾、馬場 元^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、島野 嵩久^{1,2)}、井上 恵^{1,2)}、石島 聡子^{1,2)}、安田 誠太^{1,2)}、石黒 芽意^{1,2)}、宿澤 弘子^{1,2)}、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊^{1,2)}1) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院 Juntendo University Mood Disorder Project、
2) 順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学

P-54

うつ病における血清アミロイドβタンパクの推移

(研究発表)

夏目 俊太郎¹⁾、馬場 元^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、島野 嵩久¹⁾、石黒 芽意¹⁾、市川 朝也¹⁾、安田 誠太¹⁾、宿澤 弘子^{1,2)}、済田 貴生^{1,2)}、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊²⁾

1) 順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学、2) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院

P-55

うつ病におけるアミロイドβタンパクがBDNF濃度に与える影響

(研究発表)

済田 貴生^{1,2)}、馬場 元^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、島野 嵩久^{1,2)}、石黒 芽意¹⁾、市川 朝也¹⁾、安田 誠太¹⁾、宿澤 弘子^{1,2)}、夏目 俊太郎^{1,2)}、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊¹⁾

1) 順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学、2) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院

P-56

寛解後のうつ病における認知機能の長期追跡調査、第2報

(研究発表)

平倉 瑞恵、前嶋 仁、馬場 元、島野 嵩久、井上 恵、小澤 和弘、鈴木 利人、新井 平伊

順天堂大学医学部精神医学教室、Juntendo University Mood Disorder Project (JUMP)

12. 病態・症状・診断・評価IV

2018年7月28日(土) 13:55～14:25

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：古郡 規雄 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座

P-57

双極性障害はうつ病に比べて病初期より白質統合性が低下している

(研究発表)

増田 慶一¹⁾、岡田 剛¹⁾、高村 真広¹⁾、柴崎 千代¹⁾、吉野 敦雄¹⁾、横山 仁史¹⁾、市川 奈穂¹⁾、齊藤 幸子²⁾、奥畑 志帆³⁾、小林 哲生³⁾、山脇 成人¹⁾、岡本 泰昌¹⁾1) 広島大学大学院医歯薬保健学研究科精神神経医学、2) 関西医科大学精神神経科学講座、
3) 京都大学大学院工学研究科

P-58

うつ病エピソードからの回復に寄与する気質－性格特性について

(研究発表)

三井 信幸^{1,2)}、朝倉 聡^{1,2)}、高信 径介¹⁾、渡辺 晋也¹⁾、賀古 勇輝¹⁾、久住 一郎¹⁾

1) 北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室、2) 北海道大学保健センター

P-59

スモン患者におけるうつ状態の精神医学的研究

(研究発表)

古村 健、西岡 和郎、舟橋 龍秀

国立病院機構東尾張病院

P-60

Catecholaminergic Activity and Brain-Derived Neurotrophic Factor in Patients with Drug-Naive Major Depressive Disorder

(研究発表)

吉村 玲児

産業医科大学医学部精神医学

P-61

うつ病の末梢白血球におけるSGK1 遺伝子発現

(研究発表)

梅原 英裕、渡部 真也、中瀧 理仁、沼田 周助、大森 哲郎
徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野

13. 病態・症状・診断・評価Ⅴ

2018年7月28日(土) 13:25～13:55

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：太田 敏男 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

P-62

うつ病における血清 α シヌクレイン濃度の変化：第2報

(研究発表)

石黒 芽意¹⁾、馬場 元^{1,2)}、前嶋 仁²⁾、島野 高久²⁾、井上 恵²⁾、石島 聡子¹⁾、
市川 朝也^{1,2)}、安田 誠太^{1,2)}、宿澤 弘子¹⁾、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊^{1,2)}
1) 順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学、2) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院

P-63

ロールシャッハ・テストとTCIによる、大学生の抑うつのリスク評価

(研究発表)

浅野 正¹⁾、田村 沙織²⁾、田島 耕一郎³⁾、馬場 元⁴⁾
1) 文教大学人間科学部臨床心理学科、2) あぎる野市教育相談所、
3) 医療法人社団じょうんどう慈雲堂病院、4) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院

P-64

うつ病患者の末梢血グルタミン酸濃度のメタ解析

(研究発表)

井下 真利¹⁾、梅原 英裕¹⁾、渡部 真也¹⁾、中瀧 理仁¹⁾、木下 誠¹⁾、富岡 有紀子¹⁾、
田嶋 敦²⁾、沼田 周助¹⁾、大森 哲郎¹⁾
1) 徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野、
2) 金沢大学医薬保健研究域医学系革新ゲノム情報学分野

P-65

成人期うつ症状に及ぼす小児期虐待、気質性格、ライフイベントの影響： 構造方程式モデリングによる解析

(研究発表)

高崎 由衣¹⁾、成瀬 麻夕¹⁾、村越 晶子¹⁾、榎屋 二郎²⁾、藤村 洋太³⁾、市来 真彦¹⁾、
井上 猛¹⁾
1) 東京医科大学病院メンタルヘルス科、2) 東京医科大学茨城医療センター精神科、
3) 東京医科大学八王子医療センターメンタルヘルス科

P-66

抑うつエピソード中の入院患者に測定した5因子性格特性・対人過敏性における うつ病患者と双極性障害患者との比較

(研究発表)

今井 理紗¹⁾、近藤 真前¹⁾、井野 敬子¹⁾、小川 成¹⁾、赤毛 太郎¹⁾、木下 貴文^{1,2)}、
松永 由美子¹⁾、石黒 由高¹⁾、小澤 大嗣²⁾、橋本 伸彦³⁾、高島 聡¹⁾、桑原 絢也¹⁾、
利重 裕子¹⁾、明智 龍男¹⁾
1) 名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学、2) 稲沢厚生病院精神科、
3) 八事病院精神科

14. 病態・症状・診断・評価Ⅵ

2018年7月28日(土) 13:55～14:25

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：鈴木 雄太郎 末広橋病院精神科

P-67**うつ病の身体症状の変化やその特徴について**

(研究発表)

奥村 幸祐¹⁾、島松 まゆみ¹⁾、高田 和秀^{1,2)}、松下 満彦^{1,2)}、後藤 玲央²⁾、川崎 弘詔²⁾、
徳永 雄一郎¹⁾

1) 不知火病院、2) 福岡大学医学部精神医学教室

P-68**単極性および双極性うつ病における不安性苦痛：その頻度、特徴、混合性うつとの関係**

(研究発表)

武島 稔^{1,2)}

1) Jクリニック、2) 東京医科大学精神医学

P-69**うつ病の重症度と血清 prolactin 濃度との関連**

(研究発表)

有波 浩、鈴木 雄太郎、田尻 美寿々、常山 暢人、梁矢 俊幸
新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野**P-70****双極性障害患者におけるアミノ酸系神経伝達物質の異常 ¹H-MRS 研究**

(研究発表)

中瀧 理仁¹⁾、久保 弘子¹⁾、住谷 さつき^{1,3)}、沼田 周助²⁾、亀岡 尚美¹⁾、渡部 真也¹⁾、
梅原 英裕¹⁾、大田 将史¹⁾、原田 雅史⁴⁾、大森 哲郎^{1,2)}1) 徳島大学病院精神科神経科、2) 徳島大学大学院医歯薬研究部精神医学分野、
3) 徳島大学特別修学支援室、4) 徳島大学大学院医歯薬研究部放射線医学分野**P-71****音声による大うつ病の重症度評価の試み**

(研究発表)

戸田 裕之¹⁾、斉藤 拓¹⁾、篠原 修二²⁾、大宮 康宏³⁾、中村 光晃⁴⁾、樋口 政和⁴⁾、
萩原 直樹³⁾、高野 毅³⁾、光吉 俊二²⁾、吉野 相英¹⁾、徳野 慎一⁴⁾1) 防衛医科大学校精神科学講座、2) 東京大学道徳感情数理工学講座、3) PST株式会社、
4) 東京大学音声病態分析学講座**15. 病態・症状・診断・評価Ⅶ**

2018年7月28日(土) 13:25～13:49

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：堀 輝 産業医科大学医学部精神医学教室

P-72**うつ病における Dehydroepiandrosterone (DHEA) が Brain derived neurotrophic factor (BDNF) に与える影響**

(研究発表)

宿澤 弘子、馬場 元、前嶋 仁、島野 嵩久、井上 恵、石島 聡子、石黒 芽意、
市川 朝也、安田 誠太、鈴木 利人、新井 平伊
順天堂大学精神医学講座

P-73

うつ病患者における未来に対する否定的な認知の偏り：未来性思考課題を用いて

(研究発表)

片山 奈理子¹⁾、中川 敦夫²⁾、梅田 聡³⁾、寺澤 悠理³⁾、田淵 肇¹⁾、菊地 俊暁¹⁾、三村 将¹⁾

- 1) 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、2) 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター、3) 慶應義塾大学文学部心理学専攻

P-74

寛解したうつ病患者の長期的転帰を追うー RCTベースの2年間の調査ー

(研究発表)

越川 陽介¹⁾、斧原 藍²⁾、分野 正貴³⁾、嶽北 佳輝¹⁾、緒方 治彦¹⁾、木下 利彦¹⁾、加藤 正樹¹⁾

- 1) 関西医科大学精神神経科学教室、2) 立命館大学グローバル・イノベーション研究機構、3) 医療法人正正会分野病院

P-75

治療抵抗性患者のプロファイリングー RCTベースの2年間の調査ー

(研究発表)

越川 陽介¹⁾、斧原 藍²⁾、分野 正貴³⁾、嶽北 佳輝¹⁾、緒方 治彦¹⁾、木下 利彦¹⁾、加藤 正樹¹⁾

- 1) 関西医科大学精神神経科学教室、2) 立命館大学グローバル・イノベーション研究機構、3) 医療法人正正会分野病院

16. 病態・症状・診断・評価Ⅷ

2018年7月28日(土) 13:49～14:19

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：坂元 薫 赤坂クリニック坂元薫うつ治療センター

P-76

大うつ病性障害における不安性の苦痛と全般不安症の併存に関する検討

(研究発表)

大坪 天平¹⁾、外間 朝諒¹⁾、田中 康¹⁾、佐野 奈々²⁾、高橋 杏子²⁾、佐々木 和音³⁾、渡部 芳徳⁴⁾、菊地 俊暁⁵⁾

- 1) 東京女子医科大学東医療センター精神科、2) JCHO 東京新宿メディカルセンター精神科、3) 江田記念病院、4) 市ヶ谷ひもろぎクリニック、5) 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

P-77

大うつ病エピソード経験者にみられるネガティブな概括化スキーマ

(研究発表)

松本 昇^{1,2)}、川口 潤¹⁾

- 1) 名古屋大学大学院情報学研究所、2) 日本学術振興会特別研究員

P-78

ストレス脆弱性とうつ病についての表現型ー末梢血トランスクリプトーム統合解析

(研究発表)

堀 弘明^{1,2)}、中村 誠二³⁾、吉田 冬子¹⁾、寺石 俊也¹⁾、篠山 大明¹⁾、太田 深秀¹⁾、服部 功太郎¹⁾、金 吉晴²⁾、樋口 輝彦⁴⁾、功刀 浩¹⁾

- 1) 国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第三部、2) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所成人精神保健研究部、3) DNAチップ研究所、4) 国立精神・神経医療研究センター

P-79

治療抵抗性うつ状態における大うつ病性障害と双極性障害の比較検討

(研究発表)

野崎 和博¹⁾、高江洲 義和¹⁾、坪井 貴嗣¹⁾、今村 弥生¹⁾、片桐 建志¹⁾、神田 優太¹⁾、松本 由美²⁾、渡邊 衡一郎¹⁾

- 1) 杏林大学医学部精神神経科学教室、2) 杏林大学医学部付属病院看護部

P-80

難治性うつ状態と強迫性パーソナリティ障害を併存した患者の作業遂行特徴

(研究発表)

早坂 友成¹⁾、長島 泉^{1,3)}、坪井 貴嗣^{2,3)}、高江洲 義和^{2,3)}、片桐 建志^{2,3)}、野崎 和博^{2,3)}、今村 弥生^{2,3)}、松本 由美³⁾、栗原 真理子^{2,3)}、二田 未来³⁾、渡邊 衡一郎^{2,3)}

- 1) 杏林大学保健学部作業療法学科、2) 杏林大学医学部精神神経科学教室、
- 3) 杏林大学医学部付属病院精神神経科

17. ライフサイクルとうつ病I

2018年7月28日(土) 13:25～13:55

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：坂本 真士 日本大学文理学部心理学科

P-81

周産期における抑うつ状態と躁状態の経時的な同時評価の有用性

(研究発表)

山内 彩、岡田 俊、森川 真子、中村 由嘉子、久保田 智香、大原 聖子、佐藤 真耶、尾崎 紀夫

名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

P-82

妊婦におけるInventory to Diagnose Depression Lifetime versionの信頼性と妥当性の検討

(研究発表)

久保田 智香¹⁾、稲田 俊也²⁾、椎野 智子²⁾、中村 由嘉子²⁾、佐藤 真耶²⁾、山内 彩²⁾、森川 真子³⁾、岡田 俊³⁾、尾崎 紀夫^{2,3)}

- 1) 愛知県精神医療センター、2) 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野、
- 3) 名古屋大学大学院医学系研究科親と子どもの心療学分野

P-83

月経前症候群・月経前不快気分障害と酸化ストレス・うつ・睡眠覚醒との関連

(研究発表)

三浦 淳、佐藤 史佳、熊川 郁英、南 英里、山 佳織、町田 麻依子
北海道科学大学薬学部薬物治療学分野

P-84

月経前不快気分障害 (PMDD) 患者における質調整生存年 (QALY) の低下

(研究発表)

山田 和男¹⁾、鎌形 英一郎²⁾、櫻田 久美¹⁾、吉村 淳¹⁾、中川 誠秀¹⁾、丹生谷 正史¹⁾、鈴木 映二¹⁾

- 1) 東北医科薬科大学病院精神科、2) 慶應義塾大学法科大学院

P-85

思春期発症の月経前不快気分障害の2症例

(実践発表)

萩倉 美奈子¹⁾、萩倉 祥一¹⁾、鈴木 太²⁾、稲田 俊也³⁾、藤田 潔¹⁾

- 1) 桶狭間病院藤田こころケアセンター、2) 福井大学子どものこころの発達研究センター、
- 3) 名古屋大学大学院医学系研究科精神生物学分野

18. ライフサイクルとうつ病II

2018年7月28日(土) 13:55～14:25

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：山田 和男 東北医科薬科大学病院精神科

P-86

網羅的メチル化解析を用いた産後うつ病の診断法開発

(研究発表)

中村 由嘉子¹⁾、中枿 昌弘²⁾、岡田 俊³⁾、Aleksic Branko¹⁾、遠山 美穂¹⁾、森川 真子³⁾、
山内 彩¹⁾、大原 聖子¹⁾、椎野 智子¹⁾、久保田 智香¹⁾、佐藤 真耶¹⁾、安藤 昌彦²⁾、
尾崎 紀夫^{1,3)}

- 1) 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野、
- 2) 名古屋大学医学部附属病院先端医療・臨床研究支援センター、
- 3) 名古屋大学大学院医学系研究科親と子どもの心療学分野

P-87

うつ病患者における amyloid β oligomer に関する研究：第2報

(研究発表)

安田 誠太、馬場 元、前嶋 仁、島野 嵩久、井上 恵、石島 聡子、市川 朝也、
石黒 芽意、宿澤 弘子、鈴木 利人、新井 平伊

順天堂大学医学部精神医学教室

P-88

虐められた体験が、神経症的傾向を介して、うつ病患者のうつ症状に影響する

(研究発表)

館 脩一郎^{1,2)}、浅水 美紀²⁾、黒川 達也²⁾、榎屋 二郎^{1,3)}、木内 健二郎²⁾、片山 成仁^{1,2)}、
井上 猛¹⁾

- 1) 東京医科大学精神医学分野、2) 成仁病院、3) 東京医科大学茨城医療センター精神科

P-89

批判の認識が社会生活の機能障害を介して抑うつ症状に与える影響

(研究発表)

成瀬 麻夕¹⁾、青木 俊太郎^{2,3)}、井上 猛¹⁾

- 1) 東京医科大学精神医学分野、2) 北海道医療大学大学院心理科学部心理科学研究科、
- 3) 日本学術振興会特別研究員

P-90

小児期の虐待体験が抑うつ症状に与える影響の笑い媒介効果

(研究発表)

成瀬 麻夕¹⁾、青木 俊太郎^{2,3)}、市来 真彦¹⁾、井上 猛¹⁾

- 1) 東京医科大学精神医学分野、2) 北海道医療大学大学院心理科学部心理科学研究科、
- 3) 日本学術振興会特別研究員

19. 自殺予防I

2018年7月28日(土) 13:25～13:55

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：山田 光彦 国立精神・神経医療研究センター

P-91

東日本大震災後のいわき市における自殺率減少を目指した精神科医療とその効果

(研究発表)

池本 桂子¹⁾、石崎 かつ子²⁾

- 1) いわき市立総合磐城共立病院精神科(リエゾン科)、2) いわき市立総合磐城共立病院看護部

P-92

北海道におけるゲートキーパー養成研修プログラム(基礎学習編)の開発

(実践発表)

津山 雄亮¹⁾、川本 静香²⁾、白石 将毅¹⁾、成田 賢治¹⁾、河西 千秋¹⁾

- 1) 札幌医科大学神経精神医学講座、2) 立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構

P-93

過去20年間の山口大学における学生の自殺に関して

(研究発表)

松原 敏郎¹⁾、梅本 智子¹⁾、森福 織江¹⁾、原田 有希子¹⁾、中原 敦子¹⁾、波多野 弘美¹⁾、住田 知子¹⁾、後藤 久美子¹⁾、山本 直樹¹⁾、森本 宏志¹⁾、奥屋 茂¹⁾、中川 伸²⁾
 1) 山口大学大学教育機構保健管理センター、2) 山口大学医学部附属病院精神科神経科

P-94

自殺予防対策委員会における自殺防止への取り組み

(研究発表)

ー治療者間のコミュニケーションエラー防止、意識の向上を図るー

山崎 勉
 不知火病院

P-95

福岡大学病院救命救急センターに搬送された自殺未遂者における気分障害群の特徴に関する報告と検討

(研究発表)

畑中 聡仁、川崎 弘詔、衛藤 暢明、原田 康平、吉良 健太郎、大串 祐馬、松尾 真裕子、後藤 玲央
 福岡大学医学部精神医学教室

20. 自殺予防II

2018年7月28日(土) 13:55～14:25

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：太刀川 弘和 筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学

P-96

OSCEによる自殺念慮を抱くうつ病患者への看護実践の評価

(研究発表)

守村 洋、伊東 健太郎、出水 美菜子
 札幌市立大学看護学部看護学科

P-97

思春期青年期の自殺企図歴と絶望感について

(研究発表)

辻井 農亜、丹羽 篤、三川 和歌子、和田 照平、土屋 有希、廣瀬 智之、白川 治
 近畿大学医学部精神神経科学教室

P-98

双極性障害の希死念慮および自殺企図の有無における気質・性格の影響

(研究発表)

甲田 宗良¹⁾、榎木 宏之^{1,2)}、新里 輔鷹¹⁾、栗原 雄大^{1,3)}、石橋 孝勇^{1,3)}、城間 綾乃¹⁾、近藤 毅¹⁾
 1) 琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座、2) 平和病院、3) 独立行政法人国立病院機構琉球病院

P-99

精神保健の視点から皮膚の健康を考える ー衝動性と自傷行為ー

(研究発表)

平井 豊美、幸島 美絵
 大和大学保健医療学部看護学科講座名精神保健

P-100

抑うつ状態の腎移植レシピエントに対して解決志向アプローチと多職種連携による環境調整が奏功した一例

(実践発表)

鈴木 史良^{1,2,3)}、渡辺 真弓⁴⁾、谷川 正章¹⁾、斎藤 拓¹⁾、戸田 裕之¹⁾、角田 智哉⁵⁾、仲宮 優子²⁾、高原 史郎³⁾、湯沢 賢治²⁾、吉野 相英¹⁾
 1) 防衛医科大学校精神科学講座、2) 国立病院機構水戸医療センター、3) 大阪大学大学院先端移植基盤医療学、4) 関東学院大学看護学部、5) 福島県立矢吹病院精神科

21. 産業メンタルヘルスI

2018年7月28日(土) 13:25～13:55

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：井上 幸紀 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

P-101

うつ病患者における社会/職業適応と認知機能

(研究発表)

古郡 規雄、田澤 宏龍、大里 絢子、中村 和彦
弘前大学医学研究科精神神経医学講座

P-102

ストレスチェックにおいて生活習慣がストレス反応に与える影響

(研究発表)

志村 哲祥^{1,2,3)}、杉浦 航³⁾、大野 大野¹⁾、林田 泰斗¹⁾、井上 猛¹⁾
1) 東京医科大学精神医学分野、2) 菅野病院、3) 株式会社こどもみらい

P-103

ストレスチェックとプレゼンティズムとの関連の分析

(研究発表)

志村 哲祥^{1,2,3)}、杉浦 航³⁾、大野 浩太郎¹⁾、林田 泰斗¹⁾、井上 猛¹⁾
1) 東京医科大学精神医学分野、2) 菅野病院、3) 株式会社こどもみらい

P-104

教員管理職における抑うつ症状と職業性ストレスの関連について

(研究発表)

新田 朋子、出口 裕彦、岩崎 進一、小川 弘一郎、福田 友一、野木 優香子、三武 友絵、
門脇 彩、仁木 晃大、井上 幸紀
大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

P-105

福島第一原子力発電所事故3年目の電力会社職員における心的外傷後ストレス症状と抑うつ症状の併存に寄与する因子

(研究発表)

谷知 正章¹⁾、重村 淳¹⁾、長峯 正典²⁾、高橋 晶^{3,4)}、黒澤 美枝⁵⁾、斉藤 拓¹⁾、竹下 昇吾¹⁾、
戸田 裕之¹⁾、高橋 祥友³⁾、野村 総一郎⁶⁾、清水 邦夫²⁾、谷川 武⁷⁾、吉野 相英¹⁾
1) 防衛医科大学校精神科学講座、2) 防衛医科大学校防衛医学研究センター行動科学研究部門、
3) 筑波大学医学医療系災害地域精神医学、4) 茨城県立こころの医療センター、
5) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所成人精神保健研究部、
6) 六番町メンタルクリニック、7) 順天堂大学医学部公衆衛生学講座

22. 産業メンタルヘルスII

2018年7月28日(土) 13:55～14:25

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：田中 克俊 北里大学大学院医療系研究科産業精神保健学

P-106

就業者を対象にした自己効力関連要因についての検討

(研究発表)

幸島 美絵¹⁾、平井 豊美²⁾、神崎 秀嗣³⁾
1) 神戸常盤大学、2) 大和大学、3) 秀明大学看護学部

P-107

自分と向き合うリワークデイケア～発達障害傾向をもつ休職者の事例を通して

(実践発表)

松本 敦、信田 広晶
しのだの森ホスピタル

P-108

復職支援プログラムの導入検査におけるHAM-DとBDIの活用に関する検討

(実践発表)

吉浦 未陽¹⁾、大仁田 広恵¹⁾、山下 秀一¹⁾、徳永 雄一郎^{1,2)}

1) 不知火クリニック、2) 不知火病院

P-109

復職支援プログラム効果評価におけるうつ性症状と作業検査の関連

(研究発表)

杉本 浩利¹⁾、田嶋 祐一郎¹⁾、松下 満彦¹⁾、後藤 玲央²⁾、徳永 雄一郎¹⁾

1) 不知火病院、2) 福岡大学医学部精神医学教室

P-110

休職中のうつ病勤労者の復職決定時の評価による復職継続予測

(研究発表)

堀 輝¹⁾、香月 あすか¹⁾、阿竹 聖和¹⁾、手銭 宏文¹⁾、中村 純²⁾、吉村 玲児¹⁾

1) 産業医科大学医学部精神医学教室、2) 北九州古賀病院

23. 家族への支援

2018年7月28日(土) 13:25～13:55

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：水島 広子 水島広子こころの健康クリニック

P-111

うつ病・双極性障害患者と同居する配偶者における負担

(研究発表)

—男性配偶者と女性配偶者の違いに着目して—

酒井 佳永^{1,2)}

1) 跡見学園女子大学、2) NTT東日本関東病院

P-112

うつ状態にて初めて受診した患者の家族への看護の実態と看護師の思いより、支援方法への示唆を得る

(研究発表)

坂東 紀代美、北川 敦子

学校法人新田塚学園福井医療大学保健医療学部看護学科

P-113

強迫症患者家族における抑うつ症状と強迫症状への巻き込まれとの関連

(研究発表)

小林 由季^{1,2)}、松永 寿人³⁾、中尾 智博⁴⁾、工藤 由佳⁵⁾、榊原 英輔⁶⁾、蟹江 絢子¹⁾、
新明 一星¹⁾、中山 孝子¹⁾、中川 敦夫⁷⁾、堀越 勝¹⁾1) 国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター、2) 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、
3) 兵庫医科大学精神科神経科学講座、4) 九州大学大学院医学研究院精神病態医学、5) 群馬病院、
6) 東京大学医学部附属病院精神神経科、7) 慶應義塾大学医学部附属病院臨床研究推進センター

P-114

認知症患者のBPSDとしての「うつ」は、本当に介護負担になるのか？

(研究発表)

忽滑谷 和孝¹⁾、阿保 彰寿¹⁾、常泉 百合¹⁾、岡部 究¹⁾、岩下 正幸¹⁾、稲村 圭亮¹⁾、
伊藤 達彦²⁾、小川 佳那¹⁾、古川 はる子¹⁾、繁田 雅弘^{1,2)}

1) 東京慈恵会医科大学附属柏病院精神神経科、2) 東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科

P-115

難治性うつ状態における家族の感情表出の関連要因の検討

(研究発表)

今村 弥生¹⁾、栗原 真理子¹⁾、野崎 和博¹⁾、高江洲 義和¹⁾、坪井 貴嗣¹⁾、下寺 信次²⁾、
水野 雅文³⁾、渡邊 衡一郎¹⁾1) 杏林大学医学部精神神経科、2) 高知大学医学部神経精神科学教室、
3) 東邦大学医学部精神神経医学講座

24. 症例検討とその他

2018年7月28日(土) 13:55～14:25

京王プラザホテル 南館5F「エミネンス」

座長：忽滑谷 和孝 東京慈恵会医科大学附属柏病院精神神経科

P-116

不安を強く訴えた高齢女性腰椎圧迫骨折患者のリハビリテーション経過

(実践発表)

薄木 健吾¹⁾、目黒 智康^{1,5)}、桑原 慶太^{1,5)}、松島 悦子²⁾、小林 さおり²⁾、成瀬 康治³⁾、山本 宏明⁴⁾

- 1) 北里大学メディカルセンターリハビリテーションセンター作業療法、
- 2) 北里大学メディカルセンター看護部、3) 北里大学メディカルセンター整形外科、
- 4) 北里大学メディカルセンター精神科、
- 5) 北里大学メディカルセンターリハビリテーションセンター理学療法

P-117

マラリア感染後に気分障害を発症したと考えられる1例

(実践発表)

田中 裕記、磯村 周一、平野 昭吾、平野 羊嗣、大橋 綾子、神庭 重信
九州大学大学院医学研究院精神病態医学

P-118

プライマリケアの場で患者背景の共有が治療の鍵となった抑うつを伴う適応障害の一例

(実践発表)

須賀 俊介^{1,2)}、端詰 勝敬¹⁾、竹内 武昭¹⁾、中村 祐三¹⁾、小山 明子¹⁾、小野 陽子¹⁾、橋本 和明¹⁾

- 1) 東邦大学医療センター大森病院心療内科、2) 湯河原病院

P-119

うつ病および双極性障害患者における退院1年後の抑うつ症状の予測に関する研究

(研究発表)

大柳 有加¹⁾、三井 信幸^{1,2)}、亀山 梨絵¹⁾、北川 寛¹⁾、宇土 仁木¹⁾、久住 一郎¹⁾

- 1) 北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室、2) 北海道大学保健センター

P-120

青年を対象とした死別後のコーピングについて —二重過程モデルに則った新しい心理尺度作成の試み—

(研究発表)

石田 航¹⁾、金沢 吉展²⁾、阿部 裕²⁾

- 1) 明治学院大学大学院心理学研究科、2) 明治学院大学心理学部